

東京の産業と教育

No.154

会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

グローバル人材の育成に向けて

三和電気工業株式会社 代表取締役会長

石井 卓爾



1 グローバル人材とは何か

政府が「グローバル人材育成推進会議」を主催するほど、グローバル人材という言葉が一般的になりました。昨今は海外に事業展開している企業が増えており、海外が身近なものになりました。当社も米国やタイに現地法人があり海外展開しております。

海外でも、会社の同僚や取引先に信頼されなければ仕事がうまくいきません。グローバル人材の第一歩は信頼されることでしょうか。ではどのような人が信頼されるのでしょうか。文化・慣習によって回答は異なるでしょう。模範回答はありませんが、信頼されるための方法があります。

2 信頼されるために

信頼されるためには、その国の宗教や習慣、態度、作法を受け入れ尊敬の念を持つ必要があると思います。身にしみついた日本の文化・慣習を一度横において現地の文化・慣習を大切にすれば、信頼を得やすいです。

例えば時間に几帳面、というのは日本独特の文化・慣習です。海外では「時間を守っている」とみなされる範囲が日本より緩やかです。範囲は国によって異なりますが、10分～2時間位でしょうか。遅れてきた方は「遅刻してすみません」とは言わず普通に着席されます。日本の常識と違う行動をさりりと受け止められるようになれば、グローバル人材に一步踏み出したと言えるでしょう。

3 文化・慣習の違いを乗り越える「わかりやすさ」「明快さ」が大切

「男は黙って…」というコマーシャルが昔ありまし

た。黙って黙々と仕事をしている男はカッコイイという趣旨でしたが、残念ながら海外では通用しません。海外では話さないと理解されません。しかも言葉以上に、文化・慣習の壁が大きいです。文化・慣習の違いを乗り越えないと、同じ会社の人達と一緒に仕事で成果を出せません。60%位理解されれば何とか仕事になり、80%だとうまくいきます。数字を使って説明する等、文化・慣習の違いを乗り越える「わかりやすさ」が重要です。

わかりやすく説明しても、相手が説明したとおりの行動をしてくれるは限りません。国によって「わかった」「理解できた」という言葉の意味が違います。「わかりましたか?」と聞いても皆が「わかりました」と言う国があります。これは「わかった」という言葉の意味が日本語と違うからです。そこで当社現地法人では、わかりやすく教えた後に実際にその人が説明通りに行動できるかどうかを必ず確認しフォローして、日本語の「わかった」に近づけるようにしています。

4 グローバル人材の卵

本稿で御紹介した事例は専門高校出身の当社社員が実践していることです。海外に行くと、最初はとまどいますし自分の常識が足枷になります。自分の頭で考え固定観念を打破してはじめて、世界の多様性を生かせる人材となります。生徒たちに自分の頭で考える習慣をつけていただき、グローバル人材の卵を育成されることを期待しております。



〈実践報告〉

Shinjuku Yamabuki 2020 多様な未来に対応する 情報技術者の育成SPH事業1年目の活動について

東京都立新宿山吹高等学校

主任教諭 和田 祐二

1 はじめに

本校は、平成3年に開校した都立で初めての「単位制」高校であり、「無学年制」を採用している都立高校です。また、昼夜間定時制のため1時間目(8時40分)から12時間目(21時10分)まで授業が行われており、生徒は普通科1部～4部、情報科2部・4部のいずれかに所属し、自分の部の時間帯を中心に、他の部の時間帯も組み合わせ授業を受けることが可能になっています。

昨年度から本校情報科は、文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(以下、SPH)に指定され(平成29年度～31年度)活動を行っています。

2 SPH事業と1年目の活動

情報社会は、技術やサービスが高度化・多様化しており、IT人材は量的にも質的にも不足している状況です。これらを踏まえて、本校の研究題目は「Shinjuku Yamabuki 2020 多様な未来に対応する情報技術者の育成」～昼夜間定時制情報科における単位制・無学年制を活かした情報技術者育成プログラム～としました。そして、予測のつかない情報社会に対応できるプロフェッショナルの力として、「使命と情熱」、「確かな技術力」、「問題解決能力」の3つを掲げ、これらの力を育成することを目的として、企業や大学、地域にご協力いただき、SPH事業1年目の活動を行ってきました。表に挙げた活動は、今までの学校の枠を超えた貴重な学びの場となりました。



左から、全国専門学科「情報科」研究協議会生徒交流、地元商店でのインタビュー、パネルディスカッションの様子

表 SPH事業1年目の主な活動

情報産業と社会	○システムエンジニアの方による特別授業 「現在のIT産業とそこで働く情報技術者の業務の実際と心構え」 ○主体性を育む講演会「学びのデザイン-大学の学びと、今からできる準備-
情報デザイン	○地元商店会店舗のショップカード制作
情報コンテンツ実習	○デザイン業界の第一線で活躍されている大学の先生による特別授業「アイデア発想法」など
課題研究	○課題研究の高度化に向けて「SNS開発について大学の先生からのアドバイス」 ○印刷会社ショールーム見学とVR体験、先輩技術者からのメッセージ ○中学生向け体験授業アシスタント
人間と社会	○ICT産業の様々な分野で活躍している方々によるパネルディスカッション ○セキュリティ分野で活躍する方々のパネルディスカッション ○女性技術者による講演会「未来を創る～サービス開発のリアル～」 ○全国専門学科「情報科」研究協議会(香川)での生徒発表
総合的な学習の時間	○産業教育フェア(秋田)での生徒発表や作品展示、プログラミングコンテストへの参加 ○文化祭模擬店会計システムの開発 ○Informatics Presentation(情報科発表会)の開催
課外活動	

3 評価と2年日以降の活動について

SPH事業では全体と各活動について、事業マップと到達度マップを作成し評価を行っています。測定方法は3つの力「使命と情熱」(→職業観・社会性・主体性)、「確かな技術力」(→知識・技能)、「問題解決能力」(→表現力・思考力・判断力)を8観点に分けて測定しています。

1年目は講演者などから刺激を受ける活動が多かったため、情報科全体を見ると、「情報技術を使って活躍したい」といった「職業観」が効果的に伸びる結果となりました。2年目の活動では、生徒が主体的に学ぶ場を多く設定し「問題解決能力」を大きく成長させたいと考えています。

「情報ネットワーク施工学生日本一決定戦」への挑戦

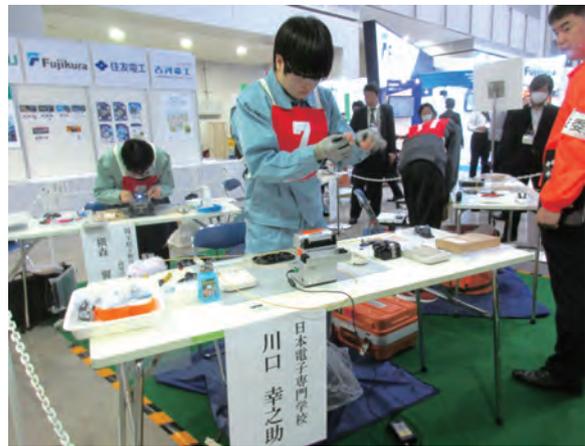
日本電子専門学校
電気工事技術科 2年 川口 幸之助

私は、社会生活に欠かせない電気の仕組みに興味があり、細かい作業が好きだという特性を活かして、少しでも社会に貢献できる仕事に就きたいと考え、日本電子専門学校電気工事技術科に入学しました。

入学して3ヵ月ほど経った平成29年7月頃に、担任の先生から「情報ネットワーク施工学生日本一決定戦」への挑戦を勧められました。この大会は、情報ネットワーク施工の技術者の育成、技能者の社会的地位向上を目的に毎年開催されており、中央職業能力開発協会(JAVADA)が主催する「技能五輪全国大会」の予選会を兼ねています。私はとても興味を持ち、ぜひ出場したいと思いました。

大会に向けた練習が始まると、すぐに手作業でケーブルを繋いでいく通信作業の大切さを実感しました。スムーズに進まないとき、練習を見ていた先生が、自分の作業工程を表にして注意点を確かめてみるといいとアドバイスして下さいました。そこで、自分の作業を振り返ると同時に、作業を客観的に見て注意点を探す練習を始めました。その結果、自分の癖や弱点が見つかり、工夫のしかたがわかりました。項目ごとに手元の作業を工夫しながら、道具の配置など周囲の環境にも気を付けるようになりました。このような練習を何度も繰り返していくうちに集中力が増して効率が良くなり、徐々に時間も短縮できるようになりました。

大会は、平成30年4月6日に東京ビッグサイトという大きな会場で開催されました。当日はとても緊張しましたが、作業服に着替え工具を準備していると不思議と心も落ち着いていきました。最初にあるメタルケーブルの課題を無事に終えて、いよいよ本戦のブースに場所を移すと、スーツ姿の企業の方が大勢いて、また緊張してきました。本番前に接続方法の変更を知らされ、練習になかった施工表の書き方があり少し焦りましたが、一度作業を始めてしまうと



情報通信配線技術フォーラム2018
『情報ネットワーク施工学生日本一決定戦』の様様

自分でも驚くほど集中することができました。最後の施工表を書き終えたとき、周りを見ると思いがけず私が一番に終わっていたので本当にほっとしました。

すべての結果が出るまでの2時間ほどは長く感じて不安でしたが、競技の結果は優勝でした。その時は、嬉しいというより無事に終わってほっとしたという気持ちが先にわきました。しかし、後片付けをして先生を待つ間に改めてメダルを見ると、紛れもなくその色は金でした。本当に金メダルなのだと思うとじわじわと嬉しさが込み上げて、先生や先輩、一緒に練習していた仲間感謝するとともに、頑張った良かったと思いました。

今回の結果は自分の力だけではありません。毎回、放課後遅くまで指導して下さった先生と先輩、そして何よりも一緒に考え、工夫し、競い合った仲間がいたからこそその結果です。また、この大会を通してたくさんのことを学びました。様々な場面で素晴らしい経験をさせていただき、少し自信もつきました。将来、就職してもこの経験を活かして、感謝の気持ちを忘れず、力強く歩んでいきたいと思ひます。

この度、平成29年度第18回全国中学生創造ものづくり教育フェア、生徒作品コンクール家庭分野I部門に「多機能エプロン」を出品し、全国農業高等学校長協会協会賞をいただきました鈴木葵です。

この作品は、2枚の布を縫い合わせてできており、それぞれの面は『家庭菜園用』と『調理用』となっています。

我が家の家庭菜園では、夏になると毎日のように一度にたくさんの野菜が収穫できるようになりますが、その度に、エプロンの裾を折り返して野菜が落ちないようにと運んでいる母の姿を見てエプロン自体が大きな収納袋であればきっと便利だろうと思い、このデザインを考えました。

エプロンの脇の部分はスリットになっているので収穫した野菜は、その場でエプロンの中にどんどん入れることができます。

キッチンまでの移動の際には安全のためにも両



受賞した多機能エプロン

手を空けて欲しいと思ったので『家庭菜園用』の面には、収穫用のはさみを入れるストッパー付きの立体ポケットもつけました。

キッチンに到着したらエプロンの裾につけたファスナーを開ければ野菜を一気に取り出して洗うことが



できます。

忙しい朝には、そのままエプロンを裏返せばすぐに衛生的に調理に取りかかることができるデザインです。

脱ぎ着がしやすいように腰紐を長めにして前で結ぶことができるようにしたこともポイントです。

『調理用』の面(写真)には簡単大きめのポケットやペンホルダー、タオルハンガーもつけて使いやすくしました。

また、どちらの面にも頻繁な洗濯にも耐えることができるように刺し子用の糸を使って母が好きな野菜や食べ物の柄をカラフルにステッチしました。

いつも近くにいって母のことをよく見ていたからこそ母のニーズに気づき、それに応える機能的な作品づくりができたのだと思います。

母にはこのエプロンを長く愛用してもらえたら嬉しいです。

以前から細かい手作業が好きだった私にとって今回の作品づくりは完成までには大変なこともありましたが、それ以上にやりがいのあるものでした。

この作品づくりを通して得た達成感は「縫うことが得意」という自信になりました。

できあがった作品にはとても満足していますが次には「こうしよう」という思いも持っています。

「縫う」ことは生活を豊かにすることにつながっていると思うので、これからも自分自身や身近な人の笑顔のためにさらに高度な技術も身につけて生活を楽しく便利にするような「ものづくり」を続けていこうと思います。

学校法人 香川栄養学園 香川調理製菓専門学校

〒170-8481 豊島区駒込 3-24-3
理事長 香川明夫 校長 古川瑞雄
TEL : 03-3576-3404 FAX : 03-3918-2291

本校は、昭和 34 年に調理師養成施設として厚生省（当時）より東京都では初めて認可を受けた施設の一つです。以来、半世紀にわたり、調理師・パティシエ・ブーランジェ養成教育に尽力し、多くの卒業生が日本国内業界はもちろんのこと世界中で活躍しております。「食により人間の健康の維持・改善を図る」という建学の精神のもと、栄養学に基づき衛生面の安全指導を徹底し、安全でおいしい料理を作ることができる、そして、職業人として強い意志を持つ人材の育成に努めています。

本校の教育の特色として学校内に営業店「レストラン松柏軒」「子工房プランタン」を設置しており、付置教育施設として本校で学ぶ生徒達の実践学習の場として活用され、充実した教育環境が整っています。

また、平成 21 年度には、2 年制の調理マイスター科を新設いたしました。他の調理系専門学校と



の差別化を図る為に、ドイツで行われてきた「職人養成訓練制度」を導入しました。「学びながら働く」または「働きながら学ぶ」という二重（デュアル）の訓練方法により職人（マイスター）を育てる制度で、就職先とのミスマッチによる離職率の低下に繋がる試みとして業界から評価を受けつつあります。

新会員校の紹介

本校は 1950 年に開校した、理容師・美容師の養成施設では歴史と伝統のある学校です。校訓「忍耐・創造・独立」（継続して励むなかに優れた力や新しい感性は生まれ、そして誇りあるプロフェッショナルを育てる）をモットーに、最先端で活躍する、数多くの卒業生たちを業界に送り出してきました。

理美容業界に直結した充実した講師陣、最新の設備・教育環境、多彩なカリキュラムで「美」をトータルにコーディネートできる技術者の育成を目指し、明日の理美容業界をにう個性豊かで、人間性を兼ね備えた人材教育に力を注いでいます。また、全員参加の海外研修旅行を行っているほか、国家資格合格・サロンでの応用技術習得のための徹底したカリキュラムを組んでいます。また、メイク・エステ・ネイル・着

付け・JNEC（ネイル）検定・カラー・デッサン・まつげエクステ・接客マナー・ボランティアなどを通じて総合的な「美」を追求します。

課外授業ではカット、メイク、着付け、色彩検定、ネイル、カラー、ブライダルメイクの上級コースを設け、特別講師による実践的な指導を行っております。



学校法人 窪田学園 窪田理容美容専門学校

〒164-8585 東京都中野区中野 4-11-1
理事長 窪田多美子 校長 中村 雅江
TEL03-3386-6789 FAX03-3386-1723

東京ガス株式会社

代表取締役社長：内田高史

<資本金> 1418 億円

東京都港区海岸 1-5-20 TEL03-5400-3887

<創業>

1885（明治18）年10月、ガス燈により操業開始。
1969年11月、アラスカより液化天然ガス（LNG）導入開始。1988年10月、天然ガスへの熱量変更作業完了。
2005年2月、世界に先駆けて「家庭用燃料電池コージェネレーションシステム」を市場投入。2007年9月、お客さま件数1000万件突破。

<従業員数・営業拠点>

7,862名。本社（東京都港区）、支社・支店・事業部（1都6県に16拠点）、導管事業部（都内に5拠点）、LNG基地（神奈川県・千葉県・茨城県に4基地）

<事業案内>

①都市ガス事業、②電力事業、③海外事業、④エネルギー関連事業、⑤不動産事業等により「総合エネルギー事業化」と「グローバル化」によって、国内外のお客さまにお届けする付加価値の増大を目指しています。

<経営理念>

エネルギーの自由化・低炭素化・省エネの進展・デジタル化の中で「ガス&電気+サービスをグローバル」に展開し、天然ガスを中心としたエネルギーフロンティア企業グループとして、「快適な暮らしづくりと環境に優しい都市づくり」に貢献していきます。

<青少年へのメッセージ>

常識にとらわれず“チャレンジングに行動していくこと”こそ、新たな道が開けます。

可能性を信じて地道に取り組み、未来を切り開いていく勇気を期待しています。



<事業内容>

資産形成コンサルタント業①人生計画書の作成サポート（資金計画、公的活用、教育情報の提供）②経営コンサルティング（事業計画策定、経費削減プラン、事業承継、M&A、専門家のご紹介）③リスクマネジメント（保険の選択、活用アドバイス）④資金調達サポート（融資におけるアドバイス）⑤セミナー・研修会（営業力、目標設定、マネープラン、リーダーシップ、副業支援、不労所得）

<メッセージ>

『未来年表』を作成したことはございますか？人口減少・財政難を強いられる日本社会において、人生計画・資金計画・人脈計画の必要性はより一層強まっていると感じています。どう資産を形成していくかは、日本社会において、一人一人の課題です。私たちが、その一助となれば幸いです。

<その他活動の一例>

弊社は、海外事業への取り組みも積極的に行っています。

●小学校～高校生の男女から選抜された少年少女連大使は、ニュー

ヨーク国連本部、ジュネーブ国連欧州本部、マニラなどで研修を行います。国際社会の抱える課題と、日本と世界の違いを理解し、海外での交流を通して次世代の民間外交を進めていく担い手として成長することを目指しています。

●SDGsを応援しています。（SDGsとは、2015年9月国連サミットで採択した持続可能な開発目標。）その取り組みとして、弊社はSMILE by WATERに参画しています。

※SDGs
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html

※SMILE by WATER
http://www.jaycee.or.jp/2018/org/unkankei/?page_id=453



株式会社 Five Rings

代表取締役：佐藤航一

東京都港区新橋 3-9-10-2F

TEL03-6402-4402

総 会

平成 30 年度総会及び講演会が6月 28 日(木)全商会館において開催されました。

来賓に公益財団法人産業教育振興中央会専務理事の富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会副会長の渡邊隆様、東京都中学校長会長の小澤雅人様をお迎え議事が進められました。

平成 30 年度の会長・副会長と理事長、常任理事、常任監事については以下のとおりです。

会 長 西澤 宏繁

(日本リスク・データバンク株式会社顧問)

副会長 金子 昌男

(株式会社カナック企画 相談役)

副会長 小林 治彦

(東京商工会議所理事・産業政策第二部長・W1環境部長)

副会長 渡邊 隆

(東京都立蔵前工業高等学校長)

理事長 中井 敬三

(東京都教育委員会教育長)

常任理事 江藤 巧

(東京都教育庁都立学校教育部長)

常任理事 星 政典

(東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長)

常任監事 甲賀 一紀

(東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理)

平成 30 年度は、これまでの「振興奨励事業」「産学交流事業」「情報連絡事業」「会員増加運動の推進」に加えて、下記の 2 項目の推進活動を加え、産業教育の発展・充実を図ります。

1 産学連携の推進

東京商工会議所及びあきる野商工会等と連携し

て、インターンシップや講演会、企業見学等の企業と高等学校との産学連携事業を推進する。

2 広報活動の推進

東京都産業教育振興会の諸事業や会員の取組や活動等をパンフレットやインターネット等を通じて広く社会に発信するなど、広報活動を積極的に推進する。

功労企業表彰



議事終了後、産業界会員功労者(永年会員)の表彰が行われました。本年度の表彰は、次の 3 社でした。

浅地事務所

株式会社竹尾

株式会社日本化薬東京 (五十音順)

当日御出席いただきました、浅地事務所 代表浅地正一氏へ西澤会長から表彰状と記念品が手渡されました。

講演会

総会終了後、引き続き講演会が開催されました。明和製紙原料株式会社代表取締役小六信和氏を講師として、「情熱、古紙リサイクル授業一紙はゴミじゃない！」という演題で行われました。講演内容については、3月上旬発行予定の会誌「東京の産業教育第 56 号」にて紹介いたします。

新会員情報

153号発行以降～6月10日

産 業 界	明和製紙原料株式会社	三和電気工業株式会社	涼和綜合法律事務所
専修学校	新東京歯科技工士学校	東京IT会計専門学校	東京法律専門学校
	御茶の水美術専門学校	専門学校日本スクールオブビジネス	日本動物専門学校
	読売理工医療福祉専門学校		
個 人	手打和明		

i n f o r m a t i o n

募 平成30年度「作文コンクール」
作品募集**主催** 東京都産業教育振興会**後援** 東京商工会議所**応募資格**

会員である中学校、高等学校、専修学校、高等専門学校及び短期大学等に在籍する生徒・学生が対象となります。

作文の内容

中学校技術・家庭科や専門教科の学習、または勤労にかかわる体験的な学習を通して、人生観・職業観、自己の将来に対する考え方や心構え等について述べたものとします。

応募締切 9月14日(金)
(学校毎の締め切りは、別に設定されています。御確認ください。)

表彰式 12月13日(木) 会場 全商会館
入選作品は、「明日に生きる」第29号に掲載します。会員の皆様には、3月末に発送予定です。

**告** 全国産業教育フェア山口大会

全国産業教育フェアとは、文部科学省が、都道府県教育委員会、産業教育振興中央会等の連携・協力を得て、専門高校等の生徒の学習成果を総合的に発表する全国的な規模の事業です。専門高校等の魅力的な教育内容について理解・

関心を高め、新たな産業教育の在り方を探り、新しい時代に即した専門高校等における産業教育の活性化を図り、その振興に資することを目的としています。本会の会員校も多数参加・出展しています。

告 第19回全国中学生創造ものづくり
教育フェア

このフェアは、技術・家庭科の授業を通して身につけた力を発表する場として全日本中学校技術家庭科研究会が主催しています。生徒たちの生き生きとした姿や作品を通して、技術・家庭科という教科を広く社会にアピールできる場となっています。

期日 平成31年1月26日(土)・27日(日)**会場** 葛飾区水元総合スポーツセンター、
女子栄養大学

東京都産業教育振興会ホームページアドレス

<http://www.tosanshin.org/>

会員校から集まる身近なニュースなど情報更新中です。 **都産振** で検索

事 事務局より

○平成30年度「会報」第154号をお届けいたします。会報の構成は従来通りですが、デザインを一部工夫してみました。会報の編集、発行に際してご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。

○東京都の産業教育をさらに飛躍させるために、情報等をお知らせしています。会員の皆様からのご感想、ご意見などをお寄せください。
○会員の募集は随時行っております。

発行 東京都産業教育振興会

〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部

高等学校教育課内

電話 03-5320-6729

FAX 03-5388-1727

印刷 株式会社小葉印刷所

再生紙を使用しております

印刷用の紙にリサイクルできます